

令和7年 年頭の訓示

皆さん、明けましておめでとうございます。この年末年始は9連休でしたが、いかが過ごされましたでしょうか。昨年は、職員の皆さんがそれぞれの持ち場で市民の皆さまに寄り添って業務に励んでいただきました。まずは、皆さんに心より感謝申し上げます。昨年秋に実施した市民アンケートでは、住みよいと思ってもらえている割合が過去最高となりましたが、これまでの皆さんのがんばりのおかげです。そして令和7年という新しい年を迎えました。私もすがすがしく晴れやかな気持ちで皆さんとともに新年を迎えられることを大変うれしく思っています。

昨年は、正月の能登半島地震から始まった年であり、7.13 水害や中越地震から20年の節目の年でもありました。加えて年末には、停電が発生して1日市役所庁舎において大きな電力を使用できない事態となりました。その際、大きな電力と空調も使えず寒いなか、復旧に向けた協議や1階の窓口での手続きをはじめ可能な業務は可能な限り対応いただいたことに心より感謝申し上げます。一方で、この停電を経験して、改めて災害時の備えの重要性を思い知らされました。大規模地震などに備えて何を優先して対応するのか、あらかじめ計画として示すBCP（事業継続計画）も策定しておく必要があると考えています。市民の皆様が安心して暮らせるよう、全庁で職員ひとりひとりが一丸となって災害など様々な危機管理にハード・ソフト両面から万全を尽くしていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

さて、見附市では「暮らし満足 No.1 のまち」を究極の目標とし、現在7つの柱を掲げて市政を進めています。市民の皆さんに満足していただくためには、将来に向かって持続可能なまちとしていく必要があります、それには可能な限りの人口規模確保に取り組んでいく必要があると考えています。その鍵となるのは、次世代を担う若者や子育て世代。彼らが「住み続けたい」「戻ってきたい」「新たに住みたい」と思え、稼げる、暮らせる、子育てできる環境を磨くこと。そして見附の住みよさの戦略的な発信こそが大切だと考えています。

子育て環境については、昨年、保育園の新規参入やリニューアル、設備の充実、誰

でも保育の試行、放課後児童クラブの拡充、駅交流施設 MITSUKERU のオープンなどが行われています。教育面では、企業家精神を養うジョブチャレ教育の本格的スタートのほか、小中学校の最適配置についても、こどもたちにとってよりよい環境を第一に委員会での議論が最終盤を迎えています。また昨年「こども・子育てどまんなか条例」を策定しましたが、今年も行政・地域・企業が一丸となって子育て世代を支えていくという理念や機運をさらに市内外へ発信するとともに、さらなる子育て教育環境づくりを進めていきたいと考えています。

加えて、企業誘致環境や農業を含めた若者に魅力ある産業・雇用づくり、さらには首都圏で働きながら見附で住む2地域居住など、戦略的に移住人口や関係人口の増加につながる施策の充実や発信を進め、若者に選ばれるまちを目指していきます。

もちろん若者だけではなく、あらゆる世代や境遇の市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりも進める必要があります。スマートウエルネスによる健幸づくりを進めながらも市立病院を核とした地域医療の充実や、さきほども述べた災害への備え、公共交通など移動の足の充実も進めていきます。さらに、現在条例策定に向けた作業が進められている障害のある方をはじめ、認知症や1人暮らしの高齢者、性の多様性、不登校の児童・生徒など、様々な境遇の方に寄り添い、「誰ひとり取り残さないまち」と言われるような取り組みを前に進めていきたいと考えています。

ところで、私自身何を一番大切に市政運営しているか、いわゆるカラーって何だとよく言われるので、改めて考えてみました。それは施策の柱の6番目にも掲げていますが、「あらゆる力を結集する」、「様々な力を市政に活かす」これに尽きるかなと考えています。

あらゆる力の中で、まずは「市民の皆さん」。私自身月1回ペースでふれあい懇談会を開催していますが、皆さんもぜひ市民の皆さんとのコミュニケーションを大切にしていきたい。「地域の力」ということでは、地域コミュニティ活動の役割は大きく、さらなる活性化は今後とも大きなテーマです。市民活動という点では旧医療施設の跡に活動拠点の整備をはじめ今後とも大切にしないといけません。「企業の力」ということでは、子育てしやすい職場づくりやジョブチャレ教育などで市内企業の皆さんには大きく協力いただいております、今後も障がい者雇用など多方面での連携が考えら

れます。「自治体間連携」ということでは、加茂市や小千谷市との勉強会も立ち上がりました。これらに加えて、課題が多様化・高度化するなかで様々な経験やノウハウのある「外からの力」も市政や組織として大切だと考えています。これまでも国の支援制度を活用しながら地域活性化起業人などに活躍いただいておりますが、現在来年4月からは、未来づくり最高戦略監を採用すべく、その選考を現在担当課とともに進めています。楽観視できない市の財政状況のなかで、公共施設のありかたを中心に、歳入歳出両面からの改善や新たなニーズへも対応しながら未来づくりに必要な取り組みを、組織の一員として私や皆さんと一緒に考えて行動してもらう予定です。

ただし、あらゆる力のなかでも最も大きな力は、まぎれもなく皆さん職員ひとりひとりの力です。一昨年からは職員提案制度を本格化させ、昨年からは未来検討WGが立ちあがりました。人材育成のありかたはもっと考えていく必要があると思っています。組織的にも各課に課題を出しながら各課から提案いただくボトムアップでの施策づくり、今後とも継続・発展させていきます。新たな施策提案はもちろん、業務の廃止や効率化、ミス防止の強化といった改善策も、職員全員が提案する権利をもっています。いろんな提案や課題を課内で議論し、横の連携を図りながら私のところに届けていただく。そして一緒に考えていけることを皆さんにおおいに期待しています。

そして本年は、市の最上位計画である10年間の総合計画の最終年度を迎えます。これから本格的に検討に着手することになりますが、職員皆さんにしっかり関わってもらいたいと思います。市民の皆さんの声を聞きながら、5年10年先の未来を見据えた、持続可能で希望がもて、住みたい住み続けたいまちとなる将来計画を皆さんとともに作り、市民の皆さんに自信をもって示せるようにしていきましょう。

最後に、あらゆる力の中で最も大きな力である皆さんがしっかりと活躍していただくためには、何より体も心も健康でなければなりません。皆さんご自身やご家族、そしてまわりの職員同士が互いに健康にも気を使っただき、風通しのよい職場にしていきたい。私自身も率先して心掛けてまいります。

今年1年が、見附市にとっても皆さんにとっても、健やかで成長できる1年になることをおおいに期待して、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。